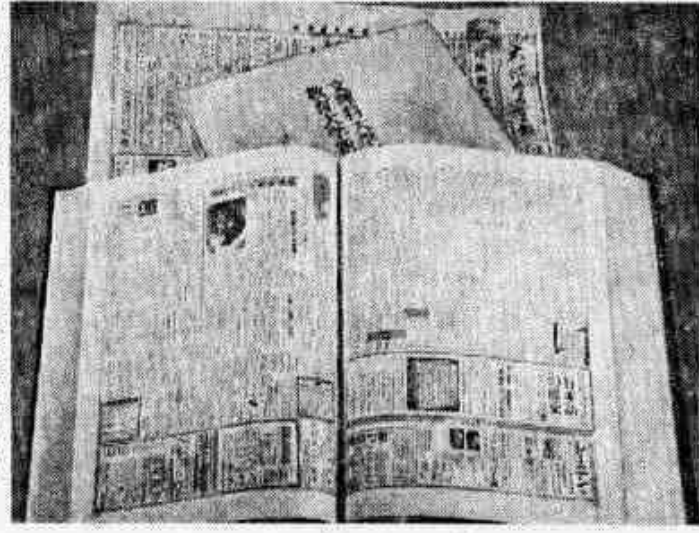


東京教育大、死すとも 学生新聞に残る



「青春の風い出さくしまでも」——O日たちの熱意で復刻された
大学新聞

大学史の証言「縮刷版」

今年三月末、廃校になる東京教育大学。その新聞会OBの間で戦後の大学史を伝える学生新聞を復刻しようという運動が起こり、みんながポケットマネーを出し合って、このほど手配の本が完成した。廃校——筑波への移転という大きな節目にも、大学として特に行事の予定はなく、この学生新聞会の自費出版だけ

OB、自前で基金 青春刻んだ28年分復刻

が、同大学をしのぶさまざまな記念となりそう。すでに口コミで復刻を伝えた教育関係者や各地の大学、図書館から五百部近い予約が舞い込み、学生の目でもとらえた戦後大学教育の証言として語調を呼んでいる。

復刻されたのは、昭和二十二年七月十日付の東京文理科大学の戦後復刊第一号(通算第三十六号)から四十八年四月十日付の最終号(四百五十一号)までで、A四判、千五百八ページの縮刷本。刊行するのは東京都新宿区山吹町八一、縮文堂ビル内、東京教育大学新聞縮刷版刊行会。

「僕たちの青春を刻み込んだ新聞はどつたるのだらう」「歴史的なれば、学生新聞があったことも忘れられる」——かつて新聞会に在籍したOBの間からそんな声が上がったのは、昨年七月のOB会集の集まりのこと。幸いすでに準備した。さきに散逸していた古い新聞の収集、整理、資料の複製作りなど、それぞれ肩の仕事を終えたOBが逐次集まって手分けして作業。二月十日に縮刷版の見本が出来上がった。

東京教育大学は戦前の東京文理科大学と東京高等師範学校が合体し、二十四年六月に新制「東京教育大学」となった。新制大学制定に当たっては、大学の目的・性格を「学術研究」とするが、「教員生活」を反映しながら戦後二十数年、どまぬり、学芸、院生らの研究論文。さらに四十年十月には朝光一郎教授の上書で、最高裁判所三小法廷(高江正己裁判長)は十四日午前、「長期欠勤は職務本人の不正行為が原因となり、会社が長期にわたる業務提供義務不履行

が足りないからストでもやりますか」と書きたエピソードも。本業そこのは、この復刻作業に取り組んだり「O日の森山さん」は、「学生時代は忘れられない新聞だったけれど、いまとなっては大学生の証言とも言うべきもの。初めは赤字覚悟で私たちの青春の証言を作ろうという気持ちがあったのですが、予想外に反響があったので、増刷も検討中です。三月には会員全員が本を囲んで青春の思い出を語り合おうと一と想われぬ成果に満ちた。

拘置で長期欠勤の解雇正当

最高裁、上告を棄却

四十七年十一月の米軍戦車輸送隊に加入して連捕され、拘置により長期欠勤したことを理由に会社が解雇したのは不当だとして製造業日本ユニオン(本社・東京都千代田区大手町、小林製薬社)の元従業員が同社を相手取り、地位回復を求めた民事訴訟。一審(東京地裁)は、同社が同社を相手取り、地位回復を求めた民事訴訟。一審(東京地裁)は、同社が同社を相手取り、地位回復を求めた民事訴訟。一審(東京地裁)は、同社が同社を相手取り、地位回復を求めた民事訴訟。